



From
the People of Japan

ヌアクショット、2021年6月14日

プレスリリース

「国境警備・テロ対策に係る機材（ピックアップ車、ポータブル金属探知機、車両底点検ミラー、バリケード）の引渡式」

2021年6月14日、ヌアクショットにおいて、日本政府からモーリタニア国家公安庁（DGSN）に対して、モーリタニアの国境警備強化に係る機材の引渡式が行われました。引渡式には江原雄功特命全権大使及び、メスガルー・ウルド・シディ国家公安庁長官が参加しました。

同式典では、2019年9月5日に署名された2億円（約7100万ウギア）の無償資金協力「経済社会開発計画」の枠組みで国境警備・テロ対策に係る機材が供与されました。モーリタニアのテロ・不法移民対策を強化する目的の下、計37台の車両（内24台は2020年11月24日にDGSNへ引渡し済み）に加え、本日（2021年6月4日）、車両13台、ポータブル金属探知機50ユニット、車両底点検ミラー50ユニット、バリケード30個がDGSNへ供与されました。

この支援を通じて、ヌアディブや他の地域の国境ポストに車両や機材を配置し、モーリタニアの平和と安定のため国境管理能力を強化することが可能となります。また、コロナ禍においては感染拡大防止のための水際対策や、今後見込まれる経済活動の増加によって高まる安全保障上のリスクを最小限にとどめることができるようになります。

これらの協力は、日本政府の提唱する「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ（NAPSA）」、すなわちアフリカのオーナーシップを尊重する形で、同地域の平和と安定を阻害する根本原因に対して必要かつ適切な支援を行うアプローチと合致しています。また、NAPSAはガズワニ大統領の政策の優先分野とも軌を一にするものです。

日本はモーリタニアに対して、1977年以降今日に至るまで、6億米ドル相当の総額無償資金協力を実施しています。



From
the People of Japan





From
the People of Japan

